New PR誌『FUN』　Fun = 楽しい

広研印刷の企業理念は『LIVE PRINTING（活き活きした企業）』。活き活きと仕事をするには、楽しむことが不可欠です。日々、イキイキ楽しんでいる広研印刷を知って頂きたく、CI委員会では新たなPR誌、『FUN』を通じて情報発信してまいります。
また、今年から弊社でオープンしたクリエイティブルーム『BABA-BASE』のコンセプトも『楽しいを創造する場所』になります。CI委員会では、この場所を利用した色々な企画を考えています。
楽しい企画を創造するには、まず自らが楽しくなければなりません。自らが楽しくなければ、お客様を楽しませることもできません。『楽しい』は価値であり、価値を生む原動力でもあります。『楽しい』から生まれる創造にご期待ください。

CI Corporate Identity

FUN

no_2
Corporate identity
2022

製本体験ワークショップを開催しました！

先日、新里製本所の社長の新里知之様をお呼びし、弊社フリースペースの BABA-BASE で製本体験ワークショップを行いました。
今回のワークショップでは１時間程度で上製本の作り方を教わりながら、世界に一冊だけの手作りの上製本のノートを作るという貴重な体験をさせていただきました！

まず最初はノートの中身となる紙のページの説明からしていただきました。
1 枚の大きな紙を 16 面（16 ページ）できるように折り畳んでいく新里社長。実際は機械で行うそうで、「今時手折はしないんですけどね」と笑いながら手際よく綺麗に紙が折れていき仕上がる様子には参加した社員一同感嘆の声をあげていました。この16面できた紙を1台と呼び、複数のこれを糸で縫い合わせてページを作ります。私たちも見よう見まねで真似してみましたが、折る際に紙の端を綺麗に合わせることや、折った際に紙がよれたりして、とても難しかったです。
ちなみに、今回作成するノートに使用した紙は、普段の製本作業で生まれた紙の切れ端を再利用しているそうです。
次に、表紙の作成へ進みます。ノートの中身より一回り大きい厚紙を好きな色の布で上下左右を折り畳み、くるんでいきます。これもまた布を綺麗に、水平に貼ることや、折りたたむことが難しく、参加者一同でとても苦戦しました。

textile　この一冊に想いを込めて

ここで使用した布はハンドバッグなどの内布で実際に使用され、余った布なのだそうです。どのような布でも作成できるため、新里製本所では着物やドレスで使用されるような高級な布で作ったものを販売しているそうです。
最後に、ノート本体に紐のしおりをつけて、表紙と中身を貼り合わせたら完成です。ここでは、背幅を合わせるのが難しかったです。
新里社長が初心者でも作りやすいように周到な準備してくださったおかげで、想像以上にとっても簡単に、世界にひとつの自分だけのノートができました。手触りの良い生地の表紙はサラサラとなで心地がよく、少しいびつだったりよれたりしている部分にも愛着が生まれ、参加者同士でそれぞれの本の個性を話し合ったり難しかった点をお話するのも面白かったです。

布だけじゃなく紙袋でもできる！？

この手作り上製本は布だけではなく、好きなカフェや、洋服のお店などの紙袋を利用してもつくれるということで、事前に作成したノートも見せていただきました。布とはまた違う風合いで、ちょっとした撮影小物にもちょうど良さそうなので、かわいくて捨てるのはもったいないけど、使う場面が無くて保存したままの紙袋を使って真似したいと思いました！
新里社長、お忙しい中ワークショップを開いてくださり、本当にありがとうございました！

新里社長と新里製本所について

今回ご協力いただき、弊社も普段からとてもお世話になっている新里製本所の詳細はこちら！
・新里製本所について
https://www.niizato.jp/

【BABA-BASE について】

弊社のフリースペース BABA-BASE では、今回のように少人数のワークショップを開くことができます。弊社社員向けではなく、一般の方向けにも開催することが可能ですので、開催したい、詳しく間取りや金額を知りたい方はこちらのお問い合わせフォームから BABA-BASE について知りたいと記入の上送信ください。

●お問い合わせ先　https://cck7.co.jp/contact　　担当　河野

広研ニュース

●広研ニュース vol.1
いま不安なことはなんですか？
2022 新入社員にきいてみた

今年の4月に入社した藤沼さん、松田さん、大竹さんの3名に話を聞いてみました！藤沼さんはDTPS部、松田さんと大竹さんは営業本部へ配属されています。3名とも20代前半で、大竹さん以外は広研が初めての会社勤めとのことです。

辻：さっそくですが、会社員としての生活リズムにはもう慣れましたか？

藤沼：休日に早く目が覚めてしまうことはありますけど、慣れてきました！

松田：僕もなんとか起きられています

大竹：僕は前の仕事がシフト制で、いまは決まった時間なのでむしろ体は楽になりました

辻：なるほど。帰宅したあとの疲れ具合はどうでしょうか？

藤沼：お酒を飲んで休めば大丈夫です

松田：洗濯や自炊ができるくらいの余力は残っています！

大竹：最近は緊張もほぐれてきたので、だんだん疲れなくなってきました

辻：みんな元気…！体力面での不安はなし、ということですね。続いて仕事の中身について聞いてみましょう。いまは先輩に教わりながら、少しずつお客様対応などを覚えてもらっている段階ですね。藤沼くんは私と同じチームなので、毎日頑張っているところを見ていますが、どうですか？

藤沼：とても丁寧に教えてもらっていて、最近は仕事しているという実感もでてきました

松田：先輩に同行してお客様を訪問したりしていますが、先輩が元気よく挨拶しているので、僕も頑張って声を出しています。お客様の反応があったときはうれしいです

辻：新人のうちは周りの反応が気になりますよね…藤沼くんの場合は電話やメールの対応がメインですが、不安はないですか？

藤沼：たまに聞き取れなくて戸惑ってしまうこともありますが、なんとかなっています

大竹：外線よりも内線のほうが、みなさん慣れた感じで手短に話してくるので「???」となりがちです笑

松田：そう！「○○（下の名前）ちゃんいる？」みたいな感じで。わからん～ってなります笑

辻：それはこちらが気をつけないとですね。でも、みなさんとてもしっかり対応できているようで素晴らしいです！では、これからの会社の将来性についてなにか思っていることはありますか？印刷業界は斜陽産業と言われつづけている中で、長く勤めることを考えると心細くなったりしませんか？

藤沼：そのように言われている中でも、60周年を迎えられるほど歴史のある会社なので、大丈夫かと思っています

大竹：僕は面接で役員や部長の方々とお会いして、とても雰囲気がよかったので入社する気持ちが固まりました。今後大変な局面があっても、この良い雰囲気があれば頑張っていけそうな気がしています

松田：不安がないわけではないですが、コロナ禍でも黒字を維持しているし、印刷以外の事業（デザインやWEB）に取り組んでいるところが安心材料になりました。CCKの研修楽しかったです！

というわけで、冒頭の問いについての新入社員たちの回答は「不安なし！」という頼もしい結果になりました。3名とも受け答えがとてもしっかりしていながら、いい意味で肩の力が抜けており、早くも広研へなじみつつある様子でした。不安がないとはいえ、まだまだ分からないことだらけであることに変わりはないのでこのしっかり度合いに甘えずに、先輩としてやるべきことをしてあげないといけないなと思いました。

関係者のみなさま、ご協力ありがとうございました！

●広研ニュース vol.2
会社にラジコンサーキットを作ってしまった男の話

～広研印刷の新しい取り組み～

辻：BABA-BASEにおもちゃの車の大きいコースがありましたけど、あれは何ですか？「会社に持ってきていい私物」の範囲を逸脱していませんか!?

パンダ部長（以下P）：驚かせてごめん（汗）ちゃんと説明します。　自分はラジコン（以下RC）が趣味で、実際に走らせたり、「パンダ部長」という名前でYou Tubeで動画を公開したりしているんです。その趣味を活かして、「パンダサーキット」って名前のRC用の室内サーキットを作っちゃったの。

辻：そんなご趣味が…　でも、あそこは会社の場所ですよね。職権濫用では？

P：ちがうちがう！ちゃんと「社長や営業本部長」にも許可をもらってるよ。むしろ、逆に「やってほしい」って言われたんだ。

辻：えっ？どういうことですか？

P：実はいま、広研印刷の営業戦略として新しい施策を立てていて、その一つとして、「個人の持つスキルを最大限に活用しよう」という動きがあるんだ。

辻：寡聞にして知りませんでした。まだ社内でも知っている人は少ないのでは？

P：近いうちに何らかの形で掲載されるかな。今どき会社でプライベートの話をしない人も多いからこそ、先陣きって自分がやることに意味があると思ってる。

辻：他の社員から何か言われないですか？

P：また変なことやってる～と温かい目で見てくれてると想いたいです。社長には定期的に「本当にいいんですか？」と訊いてる。今でも正直不安だから。もし社長にすぐにやめなさいと言われたら、すぐにやめます。

パンダサーキットの魅力とは？

辻：サーキットを自分でやろうと思ったきっかけは何ですか？

P：RCは80年代に一度ブームがあったんだけど、基本的にはマイナーな趣味なんです。でも、去年、趣味関係の有名な雑誌で特集を組まれて「注目高まってるかも？」という空気を感じて、自分でも何かできないかと思っていました。BABA-BASEでの他の企画も一段落したところだったし、CCKのメンバーが興味を持ってくれたり、昔から付き合いのあるラジコン仲間の後押しもあって、もうこれはやるか…と!!

辻：タイミングも良かったんですね！このサーキットの特徴はどんなところですか？

P：現状、都内23区にはオフロードRCサーキットはないんだ。「無い」ってことは価値になる可能性が高いわけで、ユーザーさんたちにはけっこう注目されています。あと、RCサーキットは始めたばかりの人には少し入りづらい雰囲気があって、それをどうにかしたいなと思ってた。そこでパンダサーキットは小規模だけど「完全貸し切り」とういう今までRC業界ではなかった運営方法にしてみました。のんびり自分たちのペースで遊ぶことができるし、家族だけで遊ぶこともできるのも良いところだと思います。

辻：なるほど！初心者が楽しめる場所があるのは素敵ですね。ちなみに一台いくらぐらいなんですか？

P：小さいので2万円しないくらい。大きいのは全部込み込みだと7万円くらいかな…。

辻：完全に大人の遊びですね…。

パンダ部長の想い

辻：BABA-BASEのオープン当初からサーキットを作る構想はあったんですか？

P：全然なかった。最初は他の企画で手一杯だったけど、さっき話したみたいな流れが少しずつきて、いろいろな人に協力してもらって実現できたので本当に感謝する人がいっぱいいます。あと、なるべく費用をかけないように会社からでる資材でジャンプ台とか作ってるんだよ。とくに刷版の板を入れるダンボールは上質で作りやすかった。

辻：えっ！ゴミ置き場にあるアレですか？

P：すごい丈夫で便利だよ。いつやめても気兼ねなく処分できるのもいいね。

辻：無料でエコなのはいいですね

P：お金をかけずにっていうのも大事だからね。社員のみんなに迷惑かけないように…

辻：発言の奥ゆかしさと、実現した夢のワンパクさとの差がすごい…。

色々聞けてよかったです。今日はありがとうございました！

P：ありがとうございました！社員のみんなも遊びにきてほしいです！

CIミュージアム

●CIミュージアム

電子書籍の波が大きくなっていった2011年

東日本大震災があり、現在の前川光社長が社長に就任した、大きな時代の節目のような2011年の広報誌は2冊発行されました。

一方は電子書籍、もう一方は紙の魅力を特集し、時代を取り入れ、自社の未来を見据えたものでした。表紙は2010年から大きく変わりポップな印象に。内容はどちらも対象についてQ&Aをメインにしていて、専門的な知識をわかりやすく詳細に、しっかりためになるような記事になっています。このままお客様に渡して読んでもらうだけで、説明が間に合うような精度で驚きました！

ちょっと攻めた面白い紙面レイアウトになっているのも素敵ですね。

次回は2012年号～取り上げていきますのでお楽しみに！

2011年の広報誌「LIVE PRINTING」の表紙